

歌舞伎、能、狂言… を学ぶワークショップ。
日本の伝統芸能が世界に伝わっている。

能、狂言、歌舞伎、日本舞踊など日本の伝統演劇への理解を深めるため、ITI日本センターでは、1988年より毎年、能、狂言、歌舞伎、日本舞踊等の伝統芸能のワークショップをおこなっている。2008年は「能」がテーマで、AJOSCはこの事業を支援した。

超一流の先生に国宝級の道具。

他ではできない中身の濃い研修を実現。

能面をはずすと、青い目をしたシテ方がにっこり微笑んだ。他にも外国人を含む10数人の受講生が真剣な表情で能を学んでいる。2008年8月11日(月)～20日(水)に社団法人 国際演劇協会 (ITI/UNESCO) 日本センターが主催した「伝統芸能ワークショップVol.20《能》」での風景である。

同センターは、ユネスコ傘下の国際組織インターナショナル・シアター・インスティテュート (ITI) 加盟の公認団体で、演劇による国際交流のためのさまざまな事業を行っている。「伝統芸能ワークショップ」はその一環で、毎年、能・狂言・歌舞伎・日本舞踊などをテーマに実施されている。

なぜ、外国人に日本の伝統芸能を教えるのか、同センター 事務局長の小田切ようこさんは

「この行事はもう20年ほど続いています。当初は会長の内村直也さんが『日本は文化を輸入しているばかりで輸出していない。これではダメだ。日本の伝統芸能を広く世界に発信していきたい』とおっしゃって、外国の方を対象にしたワークショップになったのです」と説明する。

研修は10日間の日程で行われ、講師には超一流の先生方を招くなど内容が充実しているものの費用負担はわずか3万円で受講できる。「これは日本人も学ぶべきだ」という意見が出て、現在は、日本人も演劇を志す方なら参加することができる。

2008年度は「能」がテーマでメインの講師として観世鏡之丞先生をはじめ、7人の先生が指導にあたった。毎回趣向が変わるそうだが、今回は能の動きの基礎(かまえ・はこび)の訓練、発声の基礎などを集中して行った。「例えば、能や歌舞伎は通常、女性は学ぶことができませんがここでならできます。衣裳や能面なども国宝級のものを用意していただきましたし、演劇の素養として古典芸能を学ぶことのできる貴重な時間だと思います」と小田切さんは語る。

最終日には鏡仙会能楽研究所で発表会が行われ、受講生たちは「羽衣」や「舞働」などの演目を披露した。一人一人がさまざまな役回りを演じ、密度が濃く、収穫の多い研修になったようだ。

タガログ語の「勸進帳」にフランス語の狂言。日本文化は確実に広がっている。

今回はドイツ、カナダ、ニュージーランドなどから受講生が集まった。小田切さんは以前このワークショップで学んだ外国の受講生たちから連絡を受けることがある。例えば歌舞伎を学んだフィリピンの受講生は、その後大阪芸術大学で勉強したあと祖国に戻り、フィリピン大学に歌舞伎コースを作ったそうだ。

「私も少しお手伝いをしましたが、この方は毎年日本から鼓や笛の先生を1人ずつ呼んで、とうとう5年後にフィリピンで『勸進帳』を上演したのです。タガログ語でも演じて、そのビデオを送ってくれました。なかなか良くできていました」(小田切さん)

他にもリトアニアの女性は、歌舞伎と浮世絵や能など日本の文化を紹介する本を出版した。フランス人の男性は文化センターのディレクターとなって狂言の「隠し狸」をフランス語で書き直して、上演したという。このように、日本の文化を輸出し、世界に知っていただくという目的どおり、ワークショップは確実に成果をあげ国際交流にも貢献している。

現在の悩みの種はやはり予算だという。ヨーロッパなどで同様のワークショップを行う場合、参加者には渡航費などを提供するのが通常だそうだ。費用は国が負担

担当者より



イベントの主旨にご賛同いただきましてありがとうございます。

社団法人 国際演劇協会 (ITI/UNESCO) 日本センター 事務局長 小田切ようこさん

当センターは個人会員の皆さんの会費によって文化事業を推進していますが、現在350名ほどで年々減りつつあるということもあり、今回の助成はたいへんありがたく思っております。日本はITIの理事国として歴史も古く、その分責任もあります。今後の活動もぜひ見守っていただければ幸いです。

する。残念ながら日本では自国の文化を世界に上げていくことに、そこまでの意義を感じていないのかも知れない。

「もしもAJOSCの助成がなかったら、今回の規模のワークショップの開催はかなり難しかったと思います」と小田切さんは語る。

20年の歴史を持ち、海外に向けては数々の成果をあげてきた「ITI伝統芸能ワークショップ」だが、今後は国内向けのPRも必要になりそうである。



真剣な表情で学ぶ受講生



能の動きの基礎を中心に特訓



国宝級の衣裳や能面を使用



超一流の先生たちが指導にあたった